〔表紙写真解説〕

表紙写真は米水津村の宮野浦にある迎接庵の木造魚籃観音像である。姿・形の良さに思わず目を引きつけられる。腰をわずかに捻り、振り向く顔の目鼻立ちは、くっきりとし、慈悲深い相を呈している。

仏像の高さは五三・二センで、桧を材料とした寄せ木造りである。

肉身に金泥を塗り、衣に金箔を押す彩色はうつくしい。全体的に洗練されており、表情や衣の様子には近代的と言えるものがある。作者の名は分からないが、江戸時代（一六〇三～一八六七）も幕末頃、中央仏師の手によって造仏されたものであろう。

伝承では、三十三観音の一つ魚籃観音と伝えるが、頭巾を被り後方を振り返る姿は、むしろ水月観音が水面に映る月を身下ろす姿を表したものと考えられる。従って本来、水月観音として造られたものが、後に魚籃観音として信仰されるようになったものと思われる。平成六年（一九九四）に米水津村の文化財に指定される（写真は『米水津の文化財』・資料も同書から引用）。（矢野）

川名のルーツ

◆**大山川**　大山町を流れ、玖珠川と一緒になって三隈川となる。文字通りの山さかしいところ。「豊後風土記」などは阿蘇川といい、阿蘇外輪山に水源をもつ。

◆**駅館川**　古代駅馬制の宇佐駅に関連する。津房・恵良両川が合流、山間部から宇佐平野に出て海にそそぐまでの川名で、流域に駅館の小字がある。古く宇佐（うさ）川とも呼ばれ、「景行紀」には菟狭（うさ）川。かつて治水の困難なことからやっかい川の異名もあった。

◆**両子川**　国東半島の最高峰である両子山に発する。双頭峰なので両子という。山下に両子寺があり、中流に三浦梅園の旧宅。梅園に親しまれた山河である。

◆**大野川**　大分市の広大な原野を潤している。文字通りの大川。源は遠く直入郡荻町から発する。

◆**臼杵川**　臼杵の起源はよくわからない。臼塚古墳に石人、石甲があり、それが臼と杵に似ているから地名が出たともいう。臼杵市の中心河川。

（『日本全河川ルーツ大辞典』）